

# 後輩たちへのエール！ その12

2020年5月8日

## 高校時代を振り返って得たもの、伝えたいこと

◇今回は、吉田茉由さん（愛知県立大学英米学科）のエールです！

高校生の皆さん。私は2017年に関高校を卒業し、現在愛知県立大学英米学科に所属している吉田茉由です。新型コロナウイルスで影響を受けている高校生の皆さんに何かできないかという先生方の考えに賛同し、このような機会を頂きました。

皆さんにメッセージをとということで、私の学生時代の経験から得た今に生きる事を伝えたいと思います。軽い気持ちで読んでいただけると幸いです。まだ大学生ではあるのですが高校時代を久々に思い出しまして、書いていて楽しかったです。

### 高校時代の私

高校時代を振り返ると、とにかくがむしゃらになって取り組んだ勉強、勉強、勉強！…も確かに覚えてはいるのですが、私の場合は部活での記憶が鮮明に浮かび上がってきます。私が活動していたのは演劇部。一回の舞台のために何日も時間を費やし、その本番一回で作品が完成する花火にも似た芸術作品の作成に参加できる演劇の魅力に私はとりつかれ、三年間最後まで所属しました。

しかし、部活動の記憶がなぜこんなにもありありと思いだせるのかと言いますと、演劇部での思い出が決して美しい思い出だけではなかったからだと思います。一緒に劇を創るといふ団体競技であるがゆえに、部活に対する方向性の違いからあらわれる熱量の差による衝突、個性の強いメンバーの意見を一つにまとめること、勉強との両立…など様々な難しいシチュエーションに投げ込まれ、その時その時で対応することが求められました。どこの部活も同じなのかはわかりませんが、とにかく人間関係で発生する問題が結構多くそれらを仲間と協力して対処していた気がします。

今となっては思い出話ですが、私はこの演劇部での活動を通して、状況に応じた最適解を探す能力を身につけたと思います。つまり問題を把握し、臨機応変に対応する力のことです。また人間関係の重要性も知りました。人間関係で起きた問題は簡単じゃなかったからこそ、卒業した今でも部活の同級生メンバーでたまにご飯に行く関係を築けています。そして苦難を乗り越えたからこそ、部活の思い出は鮮明でとても楽しいものになったのだと確信しています。在学生の皆さんにとっても、



図1 部活メンバー

何か一つのものに打ち込むこと、そしてそこで起きる問題に対処する経験は今後の人生の糧になるのではないのでしょうか。

### SGH での貴重な経験

少し話の毛色が変わりますが、ここからは私が参加した SGH 研修の経験から得たものについても少しお話ししたいです。

私が高校一年の時、関高校は Super Global High school に認定され、私は高校二年生の時に、礼文島での国際共同調査に参加しました。私は元々、考古学の分野に興味があったので参加を決めました。礼文島では国内外、様々な国から様々なジャンル（考古学、人類学、動物学等）の研究者が一堂に会し、研究をしていました。

私が参加した礼文島での体験の中で印象深かったことは英語に関連したものでした。北海道大学の加藤博文先生が、世界中の研究者の方々を集め、遺跡の説明をする際、初めは日本語、次にロシア語、そして英語を流暢に使い分け、堂々と話されていました。考古学の先生が英語、ロシア語がペラペラなんて…！！と日本の考古学を勉強するのに、語学は必要ないと思っていた私の固定概念があっさり変えられてしまった衝撃的なシーンでした。

また、その後、海外の研究者の方から出土したものの説明の時間が設けられており、それらの説明をすべて英語で聞きました。その時は説明された内容をほとんど理解することができず、悔しかった記憶があります。また、このまま理解できない状態では駄目だと思い、果敢にも研究者の方に英語で質問しましたが、結局聞きたかった内容は自分の英語力では表現できず、残念に終わりました。言いたいことが言えなかった歯がゆい気持ちは私の中で帰ってから残りました。

これらの経験から、私に、英語はどんなジャンルでも必要になるツールであるという考えと、外国の方にきちんと自分の言葉でコミュニケーションをしたいという感情が生まれました。

それから語学力を伸ばしたい、英語を磨きたいと思い、外国語学部の英米学科を選びました。一つの挑戦が自分の進路にも影響しました。やりたいこと、したいことがなかった私にとっては大きなことだったのです。今思えば、SGH を通して他の高校では経験できなかったであろう経験ができた関高校にとっても感謝しています。大切な母校です。リカちゃん買いました。



図 2 礼文島での遺跡

### 最後に伝えたいこと

高校時代を振り返って自分が得たもの気付いたことについて長々と文章にしましたが、最後に私が学生の皆さんに一番伝えたいこととしては、何でも挑戦すること、そして高校生

活を仲間と一緒に思いっきり楽しむことです。そして行った事、起こった出来事を振り返ることで、何が得られたかは見つけられるものだと思います。私も部活に打ち込んだこと、そして SGH の礼文島フィールドワークに参加したこと、つまり何かに挑戦しようとしなければ、これらの気づきや得た力は、見つからなかった、育たなかったものだと思います。何もやりたくないと思う時には、やりたくないからやらないでなく、動機が伴わなくても何かやってみることをお勧めします。学生時代は楽しんだもん勝ちですね。